

思い出の1ページ



六栄小学校 「平和への担い手として 修学旅行」

9月12日から13日にかけて修学旅行に行きました。

ことは、残暑厳しい中での修学旅行となり、熱中症などが心配されましたが、2日間予定通り行うことができました。

1日目は、被爆された語り部さんの話を聞き、子どもたちへ「平和への担い手になってほしい」「人思いの人になってほしい」などのメッセージを心に強く刻んでいました。その後、原爆落下中心地で平和集会を行い、原爆資料館で原爆の現実を実感し、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く学ぶことができました。午後からのフィールドワーク学習も暑さに負けずガイドさんの話をしっかり聞いていました。

2日目は、子どもたちが一番楽しみにしていたハウステンボスで、仲間と仲良く、協力しながら楽しい時間を過ごしていました。最後に佐賀県立宇宙科学館に移動し、科学の学習を楽しく体験できました。

この修学旅行で、6年生として成長した姿がたくさん感じられました。班行動や全体行動などでみんなと仲良く活動をしていました。また、ホテルや施設での過ごし方もとても落ち着いていました。

修学旅行で体験し、学んだことをこれからの学校生活にしっかり生かして行きます。



腹赤小学校 地域合同防災教室

9月17日、19日の2日間にわたり「地域合同防災教室」を実施しました。

昨年度までは腹赤小学校区の住民、保護者の皆さんと協力して命を守ることを目的にした地域合同地震・津波避難訓練を行ってきましたが、本年度は、「地域合同防災教室」を実施しました。

これは、来年度から導入されるコミュニティ・スクールを見据え、安心・安全な地域づくりに貢献できる子どもの主体性を育み、伸ばすことを目指した取り組みです。

9月17日第5校時に、熊本地震のときに益城町立広安西小学校長で、現在は山都町教育長を務められている井手文雄氏に「熊本地震は突然に！～小学生は地震とどう向き合ったのか？～」という題で講話をしていただきました。

地震発生後のさまざまな取り組みや子どもたちの活動の様子を具体的にお話ししていただき、話を聞いた5、6年生は自分のできること、日頃の備えを自分で考えて取り組むことの大切さを学ぶことができました。

これを受けて、9月19日には、保護者やコミュニティ・スクール推進委員の皆さんにもご協力いただき、通学路のハザード・マップを制作しました。

この地図をもとにして、通学路の危険箇所と対処の仕方について、上級生が下級生を指導する取り組みにつなげていきます。

今後も、子どもたちが主体的に、安全・安心に心がけるような取り組みを進めていきたいと考えています。



▲「地震に備えるということは…」



▲「児童と一緒に保護者や地域の方々も聞きました」